

## 多様性のある社会に向けて

岐阜市立岩野田中学校 3年  
船戸 明日香(ふなと あすか)

多様性。それは一人一人のアイデンティティ。今の時代、人種、性別、障がいの有無、さらには性的指向までも「多様性」と考えられるでしょう。

現に、世界ではその多様性を受け入れるために、政府や多くの人が動いています。例えば、自治体に同性パートナーシップ制度というものが導入されたことなどが挙げられます。このような働きにより、今まで少数派として悩んでいた人たちが、自分らしく生きていくことに前向きになっています。SNSでは男女関係なく自分の着たい服を着た写真が投稿され、それに「いいね」や「グッドボタン」をつけることで多様性を認める人も増えてきました。まさに一人一人のアイデンティティが認められる世界が実現に向かっているのです。

ですが、世界中の人が全ての多様性を受け入れられる日は本当にやってくるのでしょうか。差別をなくすべきだということは分かっています。世界中でいろいろな取り組みがされ、多くの人が多様性を認めようとしていることも分かっています。それでも私は自分が当事者になったとき、全ての多様性を受け入れる自信がありません。

ネットでトランスジェンダーのトイレや銭湯に関するニュースを見ました。それは、ある人がトイレや銭湯が「心の性別」ではなく、今まで通り「体の性別」で区別するべきだと主張したところ、炎上したというものです。炎上覚悟で言います。私も男女共用のトイレや銭湯には抵抗を感じます。嫌だと思ってしまいます。これは差別ですか。頭でどれだけ理解しようとしても私は見た目が男性の人が女湯に入ってきたら怖いと感じてしまいますし、平常心ではいられません。そもそもその人の心がどちらであるかなど私には分かりません。多様性の言葉に便乗して性犯罪などが発生する可能性だってあります。実際にトランスジェンダーを装って銭湯の女湯に入ろうとしたという事件もあります。そんなことが頭によぎったとき、我慢してなくてはならないのは私たちです。一方ばかりに目を向け、別の立場にある人を蔑ろにすることは本当に「多様性のある社会」なのでしょうか。

ここまで、受け入れられない多様性があると語ってきた私ですが、トランスジェンダーの方が周りの目を気にして公共施設のトイレを使うことをためらう、そんな事実を心で痛めています。そんな人たちが明るく生きられる世界になってほしいと本気で願っています。しかし、どうしても私自身の多様性も大切にしたいのです。皆さんにもう一度聞きたい。こんな私は差別をしていますか。

多様性のある社会は「互いを尊重し合う社会」と言われています。それはつまり「誰もが自分らしくいられる社会」なのでしょう。どんなに弱い立場でも、少数派でも周囲がそれを認め、それを受け入れてあげられる社会、それこそが私たちが目指すべき世界であることに疑いはありません。ですが、全員が自分らしくあろうとすればするほど、一方的な我慢を強いられる人が生まれます。一部の多様性を認めようとするほど、他の多様性はどんどん蔑ろにされていくのです。すべてを認めることは全く平等ではありません。それは平等の名を借りた、ただの「放棄」です。そんな社会は多様性のある社会とは程遠いところにあります。私はこう考えています。多様性のある社会とは、「我慢する社会」だと。

私が我慢する社会だと思うのには理由があります。考え方は人それぞれ違います。当然受け入れられないものもあります。けれど、それは当然のことです。受け入れられないことは悪ではありません。排除しようとするのに大きな問題があるのです。誰かを排除しようとする気持ちを多様性と認めてはいけません。自分だけがよければ、という考えではなく、相手にも我慢してもらっていると考えることで相手を思う余裕が生まれます。受け入れてあげることに受け入れてもらえないことにもみんなが少しずつ我慢する社会、それが尊重し合う社会なのではないでしょうか。

今も悩んでいるあの人がゆっくりお湯につかれて、炎上したあの人も自由に思いが語れて、私の後ろめたいこの気持ちも「多様性」なのだとして受け入れられる。そんな環境が、みんなの少しの我慢に成り立つ社会、私はそれを望んでいます。